...............

Rokko Catholic Church Bulletin

六甲カトリック教会

教 会 報

2021

12

No.600



主のご降誕の意義



日本の暦では12月25日がクリスマス、一週間置いて新年を迎えお正月となり、いかにもわくわく感のおめでたい年末年始という雰囲気に包まれます。いっぽう典礼歴では主の降誕のあとは聖家族、神の母聖マリア、主の公現、主の洗礼と祝祭日が続きます。「祝日」「祭日」と言ってもおめでたい気分はさほどありません。以前「元旦のミサ」と言って、神父様から「元旦のミサじゃない」、とたしなめられたことがあります。イエスはお生まれになってすぐ聖家族の一員となり、母マリアの育みを受けながらも、世に現われてヨハネから洗

礼を受け、人類を救う道へと一歩を踏み出されるのです。日本の巷のクリスマスのように浮かれた気分になるわけにはいきません。

今年も教会新年会はコロナの影響で開かれず、代わりに記念のお祝いの品が配られるということになりました。本来は教会の新年の祝賀会は、イエスキリストの栄光ある生涯の始まりであると認識すべきものでしょう。クリスマスから新年にかけての一連のお祝いには、イエスの歩みを象徴する深い意味があるのだと言うことを改めて感じます。



さて、教会報は今月号で600号を迎えました。教会のみなさまのあたたかいご支援をいただきながらここまでやってきました。図書室にバックナンバーが保管されています。創刊号は1968年10月、縦組みで。面白いのは広告が入っていることです。歴代の編集者がバトンを受け継いで取り組んできました。いままでに教会報の編集に携わって来られた方々のメッセージをいただいています。次頁にご紹介いたします。試行錯誤を重ねながらの現編集部ですが、ご愛読ご支援を賜り、また建設的なご意見をどしどしいただきたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。 (編集部一同)

歴代編集者からメッセージをいただきました

藤井 敦子

教会報 600 号発行、おめでとうございます。一時期、教会報の編集に携わった者として、次の方々にきちんとバトンを渡せたのだと、安堵しております。

私が編集のお手伝いを始めた頃は、パソコンなど珍しく、手書きの原稿を集め、お仕事でワードプロセッサーをお使いの方に紙面作りをご協力いただいておりました。その頃使われていたアイコンは2年前まで紙面上で活躍していました。田丸神父様にご指導いただきながら、今の Twitter 以下の情報量しかないようなホームページをはじめたり、当時、信徒会に所属していなかった私としては、父親の世代の方々ばかりでしたが、初めての教会でのお仲間ができ、嬉しそうに主任司祭との会食に出かけて行ったり、楽しかった思い出が沢山あります。

先輩方が一斉に広報部から引退され、新人二人きりになり、とにかく毎月必ず教会報を発行することを目標にぎりぎりの状態で活動していると、その時々に必要な人材が目の前に現れました。編集を手伝ってくださる方、印刷を手伝ってくださる方、折り込みを手伝ってくださる方、ホームページを刷新してくださる方、ホームページを更新してくださる方…etc. 大きなお恵みを頂いた、神様に守られながら活動しているのだ、と実感する事ばかりでした。そして信徒の皆様には、原稿でいつも応援頂いておりました。紙面作りに苦心していると、いいタイミングで、心に響く、最適の分量の原稿が不思議と届きます。先日亡くなられた三好榮之助さんには多くの投稿を頂き、助けていただきました。

クリスマスミサに来られる信徒以外の方々を対象にクリスマス特別号も作りました。毎年、その時に所属されている外国人神父様から、出身国のクリスマスの様子を伺っていました。教会学校のみなさんにクリスマスのイラストで協力もいただきました。ヨハネ・パウロ二世教皇様の逝去に特別号を発行すれば、多くの原稿が集まりました。教会創立60周年特別号には、六甲教会の始まりの福島さんからご投稿をいただきました。

コロナ禍で教会の活動も少なくなってしまいましたが、これからも教会の活動を伝え、信徒の交 流の場となる教会報を作り続けていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

「教会報」に携わって 蛭田 武

私が「教会報」に関わり始めたのは、桜井神父さんが主任司祭として着任された頃かなと思います。 当時の編集部員は藤井さん、木藤さん、山本さん、田中さんたちだったように思います。

私がこの仕事を引き受けてから1番苦労したのは原稿集めで、毎月投稿される信者さんもおられましたが、私としては何とか多くの信徒さんに書いていただきたく、日曜日のミサで目が合うと、その都度お願いして回る日々でした。やはり月1回の発刊はスケジュール的にきつく、原稿の締め切りが近づいてくると、よく自宅に持ち帰って編集作業に追われていました。

桜井神父さんは、原稿を書くのがお好きで、投稿のみならず、編集し終わった機関紙の隅々までチェックされ、よく赤字で校正された原稿が返ってきたものです。次の主任司祭の松村神父さんもよく投稿され、神父の名前だけだと目立つので、時には神父としての原稿以外に、覆面で投稿されたこともあります。コリンズ神

父さんは、日本語の読み書きに精通し、会話も流暢な日本語で話されるのですが、機関誌の投稿だけはいつもインタビュー形式でした。編集部員はそれを原稿に落とすのですが、インタビューだけの内容では、尺が足らない時は我々が少し膨らませて掲載したものです。その他、ユニークな神父さんの原稿もあり、編集に苦労したこともあります。

機関紙に携わっていた期間、苦しい時もあったけれど、よく出来上がった機関誌発行の時は、達成感と喜びもありました。

木藤貴子

この度は教会報 600 号の発行おめでとうございます。私と教会報との繋がりは 2003 年の受洗に始まりました。広報部の部員として協力頂けないかと、当時の主任司祭桜井彦孝神父様からお声がけを頂いたことがきっかけでした。教会報発行までには、原稿依頼・取材・写真撮影などの記事集め、紙面編集、校正、印刷、折込みという課程が毎月繰り返されます。どの課程においても神父様方をはじめ、信徒のみなさまのご協力なしには成り立ちません。教会報作成のお手伝いをさせて頂けたことで、受洗までは全く馴染みのなかった共同体というものを言葉上だけではなく、実際の活動として知ることができました。受洗と共に神様から頂いた数々のお恵みのひとつでした。

教会報は単なる情報媒体ではありません。教会の歴史の記録です。私が広報部コーディネーターを務めていた 2013 年に教会報 500 号の発行がありました。あれから 100 号が発行され、次は 700 号に向けて歩みを続けていくことと思います。教会報の発行を継続していくためには多大な力が必要です。神様に見守って頂きながら、多くの方々の協力を得ながら、今後も途切れることなく教会報に教会の歴史が綴られていきますようお祈りいたします。

教会報 600 号を記念して

小田琢也

教会報の作成に携わっていたのは、もう 14 年程前のことです。当時は橘さんのお父様と福井稔さんと木村さんが主な編集委員でした。途中から藤井さんに入っていただき、バトンタッチさせていただきました。その頃は、桜井神父様の巻頭言で始まっていました。お人柄通り、読みやすく堅苦しくない内容が多いエッセイで、聖書の言葉を交えながらも、軽妙なオチが着いた文章で印刷前に最初に読ませていただくのが楽しみでした。また、その頃印刷機の入れ替えもあり、写真のグラデーションがより良くなったのも嬉しい出来事でした。600 号にも及ぶ教会報の作成の一旦に携わらせて頂いた事に改めて感謝致します。

山本順子

教会報 600 号おめでとうございます。代々教会報に携わってこられた方々、神父様方の努力の賜物です。 コロナにも負けず教会への皆さんの深い思いを感じます。

私が六甲へ転入した頃、教会のことが全く分からず教会報の情報が大変役に立ち、活動を知る唯一の手掛かりでした。いつの頃か、編集に誘われ、原稿集め、編集、校正等大変でしたが、皆さんに支えられて続けられました。とてもよい体験になり、よい思い出です。

教会報は信徒の心と心を繋ぐものであり、他教会への刺激にもなり、未信者の方が教会に興味を持つ福音であって欲しいです。

神父様はじめ信徒の皆様のご協力、広報委員のご苦労に感謝致します。

そろそろ教会行事が復活してきました



静かに語る酒井司教さま

黙想会

11月13日(土)午後2時から、宣教部主催の黙想会が開かれました。指導はパウロ酒井俊弘大阪教区補佐司教です。晩秋の肌寒い天候でしたが、50人以上の参加者を得、講話と黙想は2回ずつくり返され、各自が感慨の中、黙想にふけりました。講話のテーマは「わたしからわたしたちへ」教皇フランシスコの勧めを日常生活のなかでどう実践するか。というものでした。聖性の道に至る「わたし」そして「わたしたちの神の現存」。教皇のおことば、聖書のみことばを数多く例示され親しくお話されました。4時からミサに入り、つつがなく黙想会を終えました。



7人のオルガニストたち

祈りと音楽の集い

11月14日(日)「祈りと音楽の集い」が開かれました。昨年11月以来1年ぶりです。今回は当教会のオルガン奉仕者有志7人がそれぞれ熱演しました。17世紀から18世紀にかけての作曲家たちのオルガン音楽が演奏されました。昨年同様、あらかじめ入場者へ整理券発行、コロナ予防態勢を万全にしての開催でした。70人余りの聴衆が集まり、期せずしての献金もいただきました。最後に演奏者を代表して三浦優子さんが「教会で聖歌が歌えないもどかしさを乗り越え、きょうの演奏会が出来たことは無上の喜びです」と挨拶されたのが印象に残りました。

ૢ૽ૹૢ૽૿ઌૹ૽૽ૹ૽૽ૣ૽૾ૢઌૢઌ૽ઌ૽_{ઌૺ}૽ઌ૿ૺઌઌ૽ઌ૽૽૽ૢ૽ઌ૽ઌ૽ઌ૽_ઌ

七五三のお祝い



11月21日(日)11時半のミサで、七五三の祝福が行われました。昨年と同様、コロナがまだ終息していないのでお祝いのパーティーはありません。晴着で着飾ったこどもたちは神父様からオメダイと千歳飴をいただいてご機嫌でした。まだマスクを外せないこどもたちですが致し方ありません。すこやかに成長して行くよう、会衆の祈りと拍手がどうか神様に届きますように。このミサではひさしぶりに、こどもの侍者が奉仕しました。また奉納の歌も聖歌集「こころをあわせて」の4番「愛されてる子供らしく」が歌われました。





イエズス会4つの姉妹教会より

Merry Christmas

2021年クリスマスメッセージ交換

2021年 主のご降誕おめでとうございます

新型コロナウイルス感染症はいつまで・・・と思いつつ過ごしてまいりましたが、11月から観光客への対応を再開し、聖堂1階の展示室をリニューアルオープン。聖堂もガラス越しではありますが、光が差し込むステンドグラスを見学することができるようになりました。

今年のクリスマスミサも昨年と同じで3回の予定、人数制限を広げ、山口市民の方とイエスのご降誕を祝うことができますように。

山口カトリック教会

主任司祭 百瀬 文晃S Jルイス・カンガスS J外川 直見S J信徒一同

もうクリスマスか!

今年度から祇園教会に教区司祭が赴任し、イエズス会の管区長と広島教区の教区長との下で、祇園教会が広島教区に移転する準備が進んでいます。目下のところ、それに励む毎日ですが、これから祇園教会がどう変わろうが、わたしたち祇園信徒の「福音を宣べ伝え続ける使命」には変わりありません。これからもみ言葉に生きる教会として頑張りたいと思います。ご理解とご協力をお願い致します。ありがとうアーメン。

祇園カトリック教会

主任司祭 李相源(SJ)

助任司祭 久保裕己(広島教区)

協力司祭 高山親(S.J)

信徒一同

主のご降誕のお喜びを申し上げます。

聖イグナチオの回心 500 周年のこの年、念願の津和野乙女峠巡礼とイエズス会姉妹教会訪問の実現を今年こそはと楽しみにしておりましたが、残念ながら叶いませんでした。しかしながら、今年麹町教会ではミッション 2030 の一環として、巡礼企画室が誕生し期待がますます膨らむ一年でした。

姉妹教会の皆さまと共にコロナ禍というこの 試練をのり越え、未来への希望の扉を開いてま いりたいと一同心より祈り願っております。

カトリック麹町 聖イグナチオ教会

主任司祭 英 隆一朗 司祭·信徒一同

2021年のクリスマスを迎えお喜び申し上げます。

ほぼ 2 年にわたるコロナとのたたかいで明け暮れ、やっと小康状態になりましたが、まだまだ油断は出来ません。ともあれ、ご降誕おめでとうございます。六甲教会もコロナ対応には万全の対策を立てました。公開ミサの中止、分散ミサ、集会の自粛など、本来活発であるべき教会活動を抑制しながらしのいでまいりました。私たちはコロナのみでなく、地球環境、世界平和などの大きな課題を抱えています。2022 年は希望の年でありますようにお祈り申しあげます。

六甲カトリック教会

主任司祭 アルフレド セゴビア 中村 健三 神父 増井 啓 神父 信徒一同

墓地委員会より

雨天の予報から一転して快晴となった11月7日(日)、10時のミサ後に、10家族、12名の方の共同墓地への「納骨式」が行われました。

3月の「春の墓参」は、関西3府県に対して新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発出されていた時期でしたので、例年のような共同での墓参という形ではなく、共同墓地への納骨を希望されたご家族以外の方には参加の自粛をお願いして「納骨式」のみを実施致しました。当時は「秋の墓参」の頃には事態が改善して、例年通りの形での墓参が実施できるのではないかと期待していたのですが、実施形態を決定する最終期限である10月初旬の時点では、緊急事態宣言は解除されていたものの、まだまだ先の状況が読めず、多人数が密集する形での集会の再開は時期尚早ではないかとの判断で、今回も春と同様に「納骨式」のみという形での実施となりました。従いまして、今回も神父様による個人墓地の祝別も実施しておりません。

また、例年この時期に心配されるイノシシの侵入による被害ですが、今年は既に夏頃から何件かの報告があり活動が活発なようです。イノシシの嫌がる薬剤を散布して頂くなど対策は取って頂いていますが、被害を完全にゼロにすることは難しいようです。個人墓地をご使用頂いている方でご自身での整備・清掃が可能な方は、こまめに現状のご確認とお手入れをして下さいますようよろしくお願い致します。 鍵山 浩三



ご寄付のお願い 野宿者や生活困窮者に 愛の手を!



野宿者の人たちや、生活困窮する人達の防寒着や毛布が足りなくて困っています。ご家庭で使用しないで眠っている毛布や防寒着などがありましたら、12月4日(土)~19日(日)のミサ前後に聖堂入口に置いてある段ボール箱に入れてください。防寒着は男性物で、ダウンジャケット、ジャンパー、フリースジャンパー、長袖 T シャツ、長袖ポロシャツ、トレーナー上下などです。但し、スキーウエア―や、汚れの目立つ衣類は受けとれません。洗濯済みのものをお願いします。

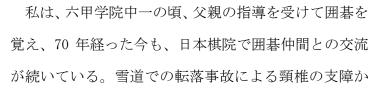
今年の冬は寒さが一段と増すそうです。みなさまのご協力 よろしくお願い致します。(社会活動部)

コロナの状況を見ながらですが、12 月 28 日 \sim 2022 年 1 月 4 日まで行う予定です。(社会活動部)

趣味百景

囲碁での交流

浅沼 清之





ら、現在、杖 2 本持参の歩行機能劣化の身であるが、幸い内臓が丈夫で、外出のためには車が離せないため、高齢者運転免許を更新して日本棋院に出掛けている。

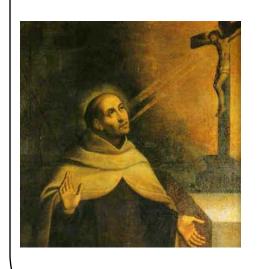
私の孫には 5 歳から、囲碁の指導をしたのであるが、今は対戦しても勝てない。頭の柔らかい時期に覚えるのが、上達の早道であることを痛感している。

桜井神父様が囲碁がお好きであったご縁で、教会の皆様ともご縁ができ、時々囲碁・将棋大会で、 交流した頃が懐かしい。これをきっかけに桜井神父様からキリスト教の講座の指導を、家内共々受 講することになり、洗礼を受けることになった。六甲学院の同級生仲間は、武宮初代校長の指導で在 学中に洗礼を受けた仲間が多いが、私は極端に例外である。洗礼を受けた以上、少しでも勉強したい という気持ちは強く、六甲学院同期生仲間の、宗教の勉強会の世話役を引き受けている。



今月の聖人 12月

☆十字架の聖ヨハネ☆

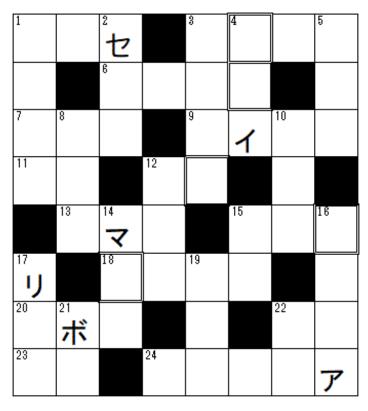


16世紀のスペインのカトリック司祭。記念日は12月14日で彼の没した日です。孤児院で育ち、病院の看護人を経てカルメル会に入会し司祭となりました。当時のカルメル会の改革に携わり、まことの霊性は苦しみの道、十字架への道と、アビラの聖テレジアらと行動をともにしますが、古参の修道士たちの批判を受け弾劾され、トレドの修道院に幽閉されるという経験をします。また彼の晩年(49歳で没)にも当時の修道院内の軋轢で理不尽な扱いを受けます。生々しい権力闘争を広げた中世のカトリック教会の犠牲者とも言えます。著書に「暗夜」「カルメル山登攀」などがあり、彼の思想は観想的神秘的で純粋ですが、その著書にはすぐれた文筆家、詩人としての素養も見えます。のちに(1926年)彼は教会博士(カトリック教会でとくに学識にすぐれた業績を残した人に贈られる)の称号を得ています。

(詫 洋一 記)

クロスワードパズル ⇒ ■ ⇒ ■ ● ● ● 答えは10頁

教会報 600 号を記念してクロスワードパズルを作ってみました。二重線の枠の文字を整理 して並べると一つのことばになります。さて何と出ましたか?



ヨコのカギ

- 1 海や川の浅いところ
- 3 母さんがセーターを…
- 6 お掃除には欠かせない
- 7 お金を借りたら払う
- 9 英語で早いことを表す単語
- 11 散財して財布は…
- 12 雨が降りそうだから持って行きなさい
- 13 ふっくら出来上がりました
- 15 お家ですね
- 18 これを交換してついに長者になったとい う○○○○長者のお話
- 20 兵庫県の町、JR なら姫路から西へ三つ目の駅名
- 22 この蔓にはナスビは生らないよ
- 23 だれも居ないなあ
- 24 アレキサンダー大王が君臨した古代の国

タテのカギ

- 1 いまの大統領はバイデンです
- 2 聖人にはなれない○○○の人間です
- 3 涼しくなれば野原に…
- 4 国民の意思とか意見、世論とも言えるかな
- 5 可憐で素朴な花です
- 8 あの人、そっくり他人の○○○ というか
- 10 九州の北、朝鮮半島に近い島です
- 12 最近はデジタルがほとんど

- 14 おすもうさんが腰に巻く
 - 15 「術」と書いてなんと読む?
 - 16 陽気な国のイメージ、バチカンもここにあります
 - 17 ありのままに映し出される現実
- 19 子どもの教育は大切ですよ
- 21 親分、ってことですかね
- 22 軍艦巻きの上に乗っけたら最高!

◆◇◆編集部から◇◆◇

○600号がちょうどクリスマスの月になりました。いつもより多い10ページ、 部数も増やして教会報をお届けしました。 ここに 至るまでに発行に携わって来られた方のあたたかいコメントに感謝申し上げます。

○ミサ予定表は、クリスマス夜半のミサなど含み、複雑こなるので今月は書優させていただきました。 週報で最新のスケジュールをご確認下さい。

○コロナが少し収まり、黙想会が開かれたことは意義のあることと思います。教会はやはり生きた共同体であることを実感しました。来年はコロナ退散、教会活動がより活発になり、よい年になりますように。

六甲春秋 中村健三神父によるエッセー 第30回

◆クリスマスと往く年・来る年◆

銀モクセイの香りが何処からともなく匂っ てくる。何だか懐かしい気持ちになる。そうい えば御影のかっての実家には、この樹が植わっ ていたのだ。さて、六甲教会報が600号の記念 すべき大台に達した。図書館に大切に保存され たファイルを調べてみたところ、1968年8月 15 日に、モラレス神父が発行準備号を出して 呼びかけ、10月13日に創刊号がめでたく陽の 目を見、何と大阪司教・田口芳五郎から御言葉 を頂いている。1968 年の王たるキリストの主 日に、六甲教会が創立 20 周年を迎えたとある から、教会報の創刊自体がその実りの一つと考 えられたのかもしれない。それを読むにつけ、 若々しい熱意や創意に打たれる。教会がそのこ ろ直接に取り組んでいた活動は数多く、何とか してイエスの福音を多くの人々と分かち合お うという熱誠やフンパツが溢れていた。同じ創 刊号に、大変にお世話になった大恩人・伊庭尚 子さんが 9月6日に帰天されたとの知らせが 載っていた。教会報の創刊以来、2021年の今 に至るまで早や53年の年月が流れ去った。当 時は幼く聞き分けの無い児童も若者も今は立 派に成長して、タクマシイ成人として阪神間は いわずもがな、日本各地で大いに活躍している ことだろう。

ところで六甲教会の創立以来、何人の主任司祭が交代していったのか御存知だろうか。ドイツ人のブラウン神父から始まって、ベルギー人のペーテルズ、薄田、ドイツ人の武庫、スペイン人のペニュエラ、アメリカ人のオマーリ、桜井、松村、アルゼンチン人のセゴヴィア神父に至るまで次々とバトンは受け渡され、既に天国の凱旋を祝っている先輩たちも多い。その間に何十人の助任司祭の惜しみのない奉仕があったことか。この教会の諸活動に財産・時間・アイデア・若さの限りを尽くして喜んで奉仕してくださった方々のお蔭で、今の六甲教会が在る

ことを忘れてはならない。しかし司祭その人は 誰であれ、いつも本質的には流れ者、決して永 く留まる者ではない。逝っては再び還り来ない 者、フツツカな従者にすぎず、事態を掌握し決 定する中心人物ではない。主イエスこそ独り、 今日も明日も変わらぬ主権者であり指導者で あり続ける。

教会の創立から 73 年余りが過ぎ去り、また 教会報も53年を経た。私たちの身の回りの生 活、人間模様、仕組みも大きく様変わりし た。好む好まざるにかかわらず、人世の裏表 を少しは垣間見たかもしれない。また私自身 も年寄り世代に入り、お爺さんやお婆さんが 周りにすっかり多くなった。しかしこの何十 年の間、毎年クリスマスは必ず巡ってきた。 私たちはそれぞれきっと多様な想いでイエス の誕生を過ごし、お迎えしたことだろう。私 事ではあるが、イエズス会の修練院では山か ら苔を取ってきて馬小屋を作った。毎朝水を かけていたが、下のタタミを腐らせてしまっ た。上石神井の哲学・神学期には大休暇の食 事やお酒を楽しんだ。ドイツでは家庭での祝 祭が徹底しているため、かえって孤独の時を 味わった。ローマではこの期間に巡礼に励ん だ。アイデアを凝らした各教会の大規模な馬 小屋は、なかなかの見ものだった。アメリカ のボストンでは寒く暗い早朝、グレートハン ドのバス駅に急ぐ途中で、五、六人の夜の女 たちがドラム缶の焚き火を囲んでけたたまし く騒いでいた。私たちは様々な想い、思い出 のうちにクリスマスを送り迎えしながら、年 齢を重ねていく。去年とは異なる人々に囲ま れ違う状況に置かれ、先行きへの新たな希望 や不安を抱きながらも。「恐れるな、見よ、全 ての民に与えられる大きな喜びを。今日ダビ ドの町に、私たちのために救い主が生まれ た」。この救いの事実に、私たちは必ず巻き込 まれている。 合掌

【 2021 年 12 月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
					日本宣教の保護 者 聖フランシスコ・ サービ・エル司祭 初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示	教会大掃除
5	6	7	8	9	10	11
待降節第2主日 宣教地召命促進 の日(献金) 小教区評議会 13:00			無原罪の聖マリア 六甲教会創立 記念日			
12	13	14	15	16	17	18
待降節第3主日					◎東灘北1	
19	20	21	22	23	24	25
待降節第4主日					◎東灘北2•芦屋	主の降誕
26	27	28	29	30	31	
聖家族	聖ヨハネ使徒福 音記者	幼子殉教者		教会受付年末 休み(~31 日)	神の母聖マリアミ サ 23:00	

◎は掃除当番地区です



次回1月号の発行は、12月25日(土)です。

原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持 参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。 皆様からの原稿をおまちしております。あわせてご 意見もお寄せください。 (広報部)

http://www.rokko-catholic.jp

六甲カトリック教会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21

話 078-851-2846

F A X 078-851-9023

E-メール renraku@rokko-catholic.jp

発行責任者 アルフレド・セゴビア

編 集 広報部

、大尺寸き、対え答のバズバ頁8